

二〇一六年一月三〇日（久安寺参加者二名）

大銀杏枯れ楼門に直立す	菜々
太閤の腰掛石に冬日燦	菜々
この寺の歴年重ね蓮枯るる	菜々
法の池埋め尽くして散紅葉	菜々
道の左右打敷のごと散紅葉	菜々
粧へる山裾縫ひてバス楽し	はく子
行厨や残るもみぢを愛でもして	はく子
散もみぢ降り積む苔の石灯籠	はく子
池涸れて風倒木の横たはる	満天
車座に童地藏や庭うらら	満天
金色の九輪冬日をはじきけり	満天
仁王門凌ぐ大樹のもみぢかな	わかば
清浄な仏塔の庭鴟叫ぶ	わかば
舌頭に千転しつ々落葉踏む	わかば

いざなはるごとく水面へ紅葉散る
明日香

愛想のよき柴犬や日向ぼこ
明日香

異次元の景さながらに蓮枯るる
宏虎

観音の翳す千手に冬日燦
宏虎

池一面散紅葉積み歩けさう
なおこ

堆く散紅葉積む磴のぼる
ひかり

小流れの楽に沿ふ径紅葉濃し
ぼんこ

吟行句会みの選

二〇一六年一月三〇日（久安寺参加者二名）